

## 支部研究局 2019 年度活動のまとめ

研究部長 古川宗治（奈良市右京小）

### 1. 今年度の支部研究局体制

【局長】古川

【部員】朝輝

3 月以降は新型コロナ感染拡大の為に、予定通りの実施が困難となったが、事務局や各主催ブロックの協力のおかげで、リモート開催を実施することができた。

### 2. これまでの支部例会

「おもしろ体育スクール」

- ① 10 月 26 日（土）：泉州  
陸上運動実技「短距離走・リズム走」
- ② 11 月 30 日（土）：南河内  
陸上運動実技「ペースランニング」  
ボール運動実技「タグラグビー」
- ③ 2 月 1 日（土）：市内  
グループ学習研究報告「山本実践報告」
- ④ 4 月 18 日（土）：中河内  
器械運動実技「跳び箱」※中止
- ⑤ 5 月 23 日（土）：奈良 ※リモート  
水泳「水慣れからドル平へ」
- ⑥ 6 月 27 日（土）：豊能三島※リモート  
ボール運動実践報告「かっぱし野球」

#### ①実技例会・研究報告例会

泉州や南河内で行われた実技例会では、陸上やボール運動について、各ブロックの研究内容に沿った実技例会が行われた。参加者数がそれほど伸びなかったのは残念だったが、開催地が各ブロックということで新たな参加者の獲得や、他ブロックからの参加者による研究の深まりなど、一定の成果も見られた。

また、市内ブロックでは森さんを招き、山本実践の研究報告が行われた。大阪支部内とはまた違った研究者からの報告に、新しい視点を与えてもらった例会となった。ただ、講師交通費等をどう執行するのかについて、事前にブロックと協議しておく必要があった。

#### ②リモート例会

新型コロナ感染症対策の為に、4 月の実技例会が中止となってしまった。また、それ以降も、「通常の実技例会の実施は困難である」という常任委員会の判断により、リモート例会の実施が検討された。

はじめに、奈良ブロックによる「水泳」のリモート例会が試験的に開催された。Zoom を使用して、提案・報告 30 分、質疑応答・意見交流 30 分の 1 時間での実施となった。

講師の牧野さんの PC 画面を共有し、資料や

### 3. 研究局の活動

今年度の研究テーマ「すべての子どもたちが運動文化の主体者となる授業づくり」に迫っていくために、実技例会を充実させていくことを方針として挙げ、今年度は 6 回の例会実施を予定していた。昨年度と同様に、各ブロックがそれぞれの研究テーマに沿った企画・運営ができるようにし、各ブロックの特色を生かされる例会になるように設定した。

動画を配信しながらの進行であったが、支部内だけでなく、全国から40名を超える参加者があった。Web上での意見交流はなかなか機能しなかったが、参加者の感想はおおむね良好であった。ただ、あのような形でスムーズに進行できたのは、牧野さんがこれまでもデジタル機器を使用しながら報告してきたその経験があったからだと推測される。

続いて、豊能三島ブロックによる実践報告がリモートで開催された。2本の実践報告とその討議がそれぞれ1時間ずつ行われたが、会場の討議をリモートで配信することの難しさと分かりにくさが改めて、浮き彫りとなった。

実践報告2本はどちらも大変興味深いものであり、意見交流も活発にされたが、会場の参加者とリモートの参加者との間に少し空気感の違いのようなものが感じられた。報告されている会場の雰囲気をお届けするような配信は大変難しいと実感した。ただ、リモートでの実施を重ねることで、事務局を中心にそのノウハウも蓄積されてきているので、これからのリモート例会充実につなげていきたい。

## ②支部研究大会

新型コロナの影響で、時期を秋にずらしての開催となった。今回大きな転換となったのが、「一日完結型の分科会設定」であった。1日参加者にとっては、入門からまとめまでしっかり学べた。これまで難しかった「小・幼年・障害児」という垣根を越えた学びを実現できたことも大きかった。研究の深まりをどう構築していくかという課題もあるが、多様な学びが保障されるこの形がしばらくは継続していくのではないかと。

## 4. これからの例会

どの例会においても、参加者の満足した感想が多く見られた。もちろん、各ブロックの取り組みのおかげである。研究局の人員から考えて、「支部例会の企画・運営」については、補助的な役割を担うことしかできない。これからも、各ブロックと共催という形で例会を行いながら、支部全体の企画力・運営力・研究力・実践力を高めていきたい。

また、例会の形態については、今後の情勢を見ながらではあるが、来年度いっぱいはいリモート開催が中心になると想定している。